小松島市の長い歴史の中でも、屋島の合戦へ向かう源義経が四国で最初に上陸した地であることは有名で、今でも市内各所に義経ゆかりの場所が点在し、数々の伝説が語り継がれています。

源平争乱の時代、伊豆に兵を挙げた源頼朝は、平氏政権に不満を持っていた関東武士の支持を得て鎌倉に進出し、富士川の戦いで平家軍に大勝して鎌倉幕府を開きました。頼朝は、平家軍追討のため弟の範頼と義経を大将とする大軍を西へ送り、一ノ谷（今の神戸市内）と屋島（高松市）で平家軍を破り、壇ノ浦（下関市）で遂に平家を滅ぼすのです。この源平合戦のクライマックスである一ノ谷の合戦から屋島の合戦の間に小松島が登場します。

一ノ谷の戦いで敗れ、讃岐屋島に逃れた平家軍追討の命を受けた義経は、摂津渡辺の津（今の大阪市堂島）から二十隻の船で漕ぎ出し、紀淡海峡を南下。

❶

One of the most famous events in Komatsushima City’s history is that Yoshitsune, a military commander, disembarked the district in order to hunt down and kill the Heike troops that escaped to Yashima, at the times of the battles of the Genji and Heike clans. Even now there are various parts of the city dotted with places that have some connection with Yoshitsune, and numeral legends that have grown up around him have been passed down from generation to generation. In the morning of February 18, 1185 Yoshitsune, in a rainstorm, disembarked present Komatsushima at the head of the troops of more than 150 soldiers all the way from present Osaka. They kept walking all night to cross into the border of Sanuki province and attacked the Heike troops from behind on the following day, which is known as a victory of the Genji troops over the Battle of Yashima. The route the Yoshitsune troops was believed to have taken is called “Yoshitsune Dream Road” and those who look for romanticism in history admire it. The statue of a cavalier, Yoshitsune, which is the highest statue in Japan, was set up at the summit of Mt. Hata in 1196 and it is the symbol of Komatsushima City.

義経率いる平氏追討軍の足跡を追って

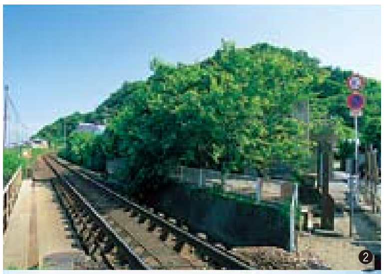
Chapter Ⅰ

寿永4年（1185）2月18日、屋島に逃れた平家軍追討のため、源義経軍は風雨をついて阿波の国勝浦（現在の小松島市）に上陸。当地を駆け抜け屋島へと向かった。

折からの暴風雨に乗じて、通常二日かかる行程をわずか六時間で阿波の国勝浦（現在の小松島市）に漂着しました。寿永四年（一一八五）二月十八日早朝のことでした。義経が率いた軍は、精兵わずか一五〇余騎。地元の新居見城主・近藤六親家の先導を受けて、現在の小松島市を横断して土佐街道を北へ進み、勝浦川を渡り、平家方の熊山城（徳島市）、桜間城（石井町）を攻め破り、夜を徹して難所とされる大坂峠を越えて讃岐国に入りました。十九日には屋島に近い牟礼に押し寄せ、背後から平家軍を攻撃。義経軍の奇襲を受けてあわてた平家軍は海に逃れ、源氏は屋島の戦いに勝利したのです。

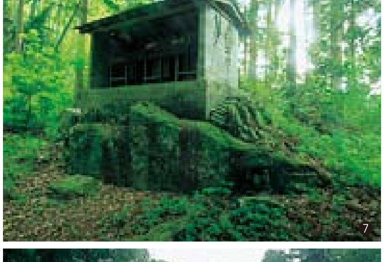
　義経が屋島に向かって進軍した経路は現在「義経街道」と呼ばれ、勢合山の突端に立つ「義経上陸の碑」を起点として、義経ゆかりの地を結ぶ約十キロメートルの「義経ドリームロード」として案内板や道標が設置され、史跡やロマンを求める人々に親しまれています。義経が小松島の海岸に上陸してから屋島に攻め入るまで、わずか一日のできごとでありながら、付近には、弦張坂、弦巻坂、くらかけの岩、天馬石、弁慶の岩屋など、義経にまつわる伝説の場所が多く残されており、人々の義経にかける思いの深さが感じられます。

　また、義経が兵士達の士気を高めるために白旗を掲げたとされる「旗山」の山頂には、平成三年に六・七メートルの日本一の高さを誇る義経騎馬像が立てられ、夜はライトアップされて、小松島市の新しいシンボルとなっています。

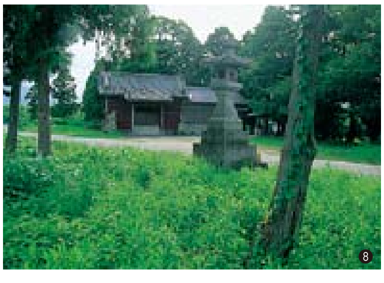

❷

❸

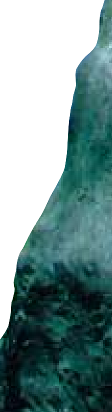
❹


7

❺


❽

❻



❶旗山山頂の東端にある源義経騎馬像、台座2.6m・像高6.7mで騎馬像では日本一
❷小松島の浜に着岸した義経軍が軍船を勢揃いさせた場所と伝えられる「勢合」
❸義経上陸の地、義経軍は暴風雨をついて紀淡海峡を南下し勝浦に上陸した
❹旗山、源義経はこの山の山頂に源氏の白旗を掲げ兵の士気を高めた
❺宇治川先陣争いをした名馬「池月」が倒れて石に化したとされる「天馬石」
❻義経上陸の際、手兵30余騎で屋島へ先導した近藤六親家の居城「新居見城跡」
❼義経が馬の鞍をかけたとされる春日神社境内にある「くらかけの岩」
❽「中王子神社」義経軍はこの付近から勝浦川を渡り熊山城を攻めた